

令和6年度入学試験問題

国語 (3科目入試)

注 意

1. 合図があるまで表紙をあけないこと。
2. 解答はHBの黒鉛筆もしくはシャープペンシルで解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークすること。
3. 解答用紙に受験番号を正しくマークし、氏名を記入すること。
4. 解答用紙に解答以外のことを書いた場合、その答案は無効とする。
5. 受験票は机上に出しておくこと。
6. 【国語】の問題は1番から41番までとなっており、別に記述問題が1問あります。記述問題の解答は、マークシートではなく記述問題用の解答用紙に解答すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

批評家の小林秀雄は、『ドストエフスキイの生活』(一九三九年)の序文に付された「歴史について」において、次のように述べる。すなわち彼は、史料というのは自然を人間化するわれわれの能力が自ら感ずる自然の抵抗であり、また生きていた人物の蛻の殻にすぎない。そうした蛻の殻をきつかけとして歴史的事実を創る際には、愛児を失った母親がそのささやかな遺品を前に感ずる深い悲しみが、死児の顔を蘇らせまじまじと描かせるのだということを忘れてはならない。彼女が使用しているのが、最小限度必要な根本の技術だ……と。

そして哲学者田中美知太郎との対談「現代に生きる歴史」では、客観的事実自体には歴史の意味はない。その事実が、どういうふうに感じられ、どういうふうに考えられていたかということが、歴史的事実であり、それが歌や物語になっている。しかし歴史学者はそれを無視し、科学的なることを御旗に「貝殻も万葉も同じこと」としている、と痛烈に批判している。

史料を

I

に読むだけで歴史的事実が客観的に捉えうるとか、因果関係を説明するのが主眼だ、といった科学的な歴史の理論を信じていない小林は、

① 歴史家の主観、およびそれが対話すべき過去の人々の思考や感性こそが生きた歴史を甦らせるといふのである。「昭和史論争」において、史上の人物の迷える気持ちへの追体験のない、概念の一統計的人物しか出てこない歴史を人間性喪失の歴史と非難する亀井勝一郎も、同様な立場だろう。

ところが、歴史研究者は一般に、こうした主観性に彩られた歴史をあるべき客観的な歴史から区別して、前者を避け後者を実現しようとしてきた。近年におけるそうした言明の代表は、たとえば遅塚忠躬のものである。遅塚が『史学概論』を書かねばならぬと決意したのは、「そういう歴史学の主観性をつきつめて行けば、歴史学の営みは、文学作品の制作や物語り行為と同一視されることになる。私は、言語論的転回以後の現代歴史学がそういう方向にとめどなく流れている状況に対して、どこかで歯止めをかけることが必要だと考えている。歯止めはどこにあるのか。その一つは、主観的解釈から独立した客観的事実の存在を認めることであり、もう一つは、事実によって裏付けられない事象を、経験科学のあずかり知らない真実の世界に属するものとして、歴史学の対象から外すことである」。

②

、ちよつと考えればわかることだが、そして遅塚もべつに否定しているわけではないにせよ、歴史は、いくら科学的な手続きを厳密に踏み史料を批判的に解読し、適切な問題設定をして分析・総合するのだとしても、やる人によって結果は変わってくる。愛児を亡くした母親が、情愛を込めて掛け替えのない子供との時間を歴史として描く、といったケースではないにせよ——小林も当事者でないと歴史は描けないとするのではない——、他人がその任を引き受けるにしても、科学実験のように誰がやっても機械的におなじ結果が出る、ということはありえない。そんなことなら歴史家は不要だろう。

史料批判の方法が同一で、結果取り出された「事実」がおなじでも、それらをいかに組み合わせるか、また何が原因で何が結果かを判断するのも、人に

よって変わつてこよう。事実の組み合わせや因果関係の確定の前に、そもそも事実そのものの定式化——わかりやすい例は、「迫害」とか「凶行」とのレッテル貼り——にも価値判断が関わっている。史料を通してのおのずと「事実」が確定できるというわけではないのである。

言い換えれば、歴史とはまずはじめに、私の目から見た、私の心情が捉えた歴史になる、という面が避けられないのである。歴史的存在である人間の主観性を通してしか、客観性も存立しえない、というのが歴史（学）の他の学問にはない特徴なのではあるまいか。それは不完全さの要因でなく、むしろ理解の前提条件、歴史の出来事の了解の枠組みと解するべきであろう。その了解の枠組みの中にいる歴史家は、そこを離れることなく、しかし研究対象の、その時代・地域の価値体系や意味構造を十分把握した上で、その中の人々の思いを追体験し、あるいは感情移入してその当時の人たちの出来事に向かつていかなばなるまい。その追体験の基盤、言い換えればある出来事が重要かどうか価値判断し、その意味形象を叙述に取り入れるべきか否かを決めるのは、心的存在としての歴史家自身がそれまでの人生における生活体験を通じて手に入れた問題意識あるいは生活意識である、というところが、学問としての歴史学の特異性であろう。

③、先に述べたところからも推定できるように、「歴史」というのは、個々人の思い出、記憶と違つて、公的な出来事である。おなじ出来事でも公的な意味を帯びたものである。共同的・社会的関心に照らして意義のあるもの、その意味形象だけが歴史学の対象としてふさわしい。そこには、私的領域を越えたインパーソナルな次元がいつも包み込まれている。そうした次元・領域とは、たとえばもろもろの社会集団であり、村や都市であり、地域であり、国家であり、ヨーロッパのような文化圏であり、最終的には、世界の人類、ということにならう。

こうして空間的にも時間的にも、物語の構成は、一人の歴史家が行うにしても、実際は間主観的行為なのである。野家啓一によると、この「想起の共同体」に支えられて個人的記憶の欠落や記憶違いは補填・修正され、またこうした共同作業を通じて構成された歴史的事実は、個人的思い出のレベルを超えて「間主観的妥当性」を獲得する。

④ 過去というのは、複数の人間の多様な想起的射映の「志向的統一」だ、ということになる。それぞれの人間が想起するのは過去の一面的な相にとどまるが、同一過去には多様な相・現れがあると皆が意識してそれらが調和的に統一されるとき、歴史的事実が確定するのだらう。おなじく野家によると、小林秀雄の「思い出」論は、そのままでは「歴史」に転成せず、甘美な個人的感懐であつても間主観的な歴史ではない。歴史に転成するためには何より「物語り行為」による媒介が不可欠であり、それによつてはじめて断片的思い出は構造化され、また共同化される。その過程で母親の感懐の微妙な私秘的彩りは言葉の砥石でそぎ落とされるが、逆にⅡ を獲得し、独立した作品となつて「記憶の共同体」へと登録される。それが歴史的事実の成立条件だといふのである。

では歴史家は、どんなふうにか公的な歴史を描けばよいのだろうか。そのときに問題になるのが、いわゆる「歴史観」である。「歴史観」とは、歴史の変化ないし展開は何のために、何に向かつて、いかなる軌道を描いて進行していくのか、そしてまた、その変化ないし展開は、どんな要因によつてもたらされる

のか、という点をめぐる基本的考え方・解釈原理である。この歴史観にもとづいて、歴史家は無数の事実を取捨選択することになる。史料に相對するその当初の姿勢もこの歴史観が決めていこう。

1

また、近年まで世界の歴史学を率いてきたアナール派では、発展段階説や進歩史観^{のつと}に則^{したが}った法則はまったく容認されない。それどころか、歴史人類学や系（セリー）の歴史学は、それぞれ違った方向からそれを断ち切っている。前者は、社会人類学や象徴人類学の手法を歴史社会に適用して時間の否定するところから出発しており、後者は、そもそも限定された範囲での数量の増減を跡づけるのみで、全体の方向については何も語らないからである。

Ⅲ

III

客観性、公平性が重んじられますます精緻な実証的専門研究が主流となっている現代歴史学において、歴史法則はもとより歴史観という言葉にも、歴史の対象に向き合うのに予断を持たせるような語弊があるのなら、歴史の「道筋」と言い換えてもよいだろう。【5】

ブ」がなければ、どんな歴史も意味がない。前工業化から工業化へ、農村主体の世界から都市化された世界へ、絶対王政から民主政へ、口頭伝承から書記伝

達へ、これらをかならずしも「進歩」と見る必要はないかもしれないが、各地域・時代におけるそうした「道筋」の様態および意味するところを、共通性と差異を勘案しながら説明する必要があるからである。

(池上俊一『歴史学の作法』による)

* 問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 傍線部1「貝殻も万葉も同じこと」としている、と痛烈に批判している」とあるが、小林は何を批判しているのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **1**。

a 貝殻は科学的な手続きを踏んでいるため史料になるのに対して、万葉は主観により描いているため史料にならないものであることを、歴史学者がわかっていないことを批判している。

b 貝殻は誰にとつても同じように見えるものであるのに対して、万葉は創作物であるため人によつて読み方が異なるものであることを、歴史学者がわかっていないことを批判している。

c 貝殻は生きていた人間の蛻の殻にすぎないのに対して、万葉は生きている人間の息吹がそのままあらわれたものであることを、歴史学者がわかっていないことを批判している。

d 貝殻は客観的に存在する史料にすぎないのに対して、万葉は事実を書き手の目を通して捉え直し、作品化したものであることを、歴史学者がわかっていないことを批判している。

e 貝殻は科学的分析を通して事実を読み取れるものであるのに対して、万葉は一般民衆の心情を読み取ることができるものであることを、歴史学者がわかっていないことを批判している。

問2 空欄Iを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **2**。

- a 融通無碍 b 牽強付会 c 虚心坦懷 d 夜郎自大 e 当意即妙

問3 空欄①～⑤を補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。ただし、同じものを二度以上選んではならない。解答番号は

①－、②－、③－、④－、⑤－。

- a あるいは b つまり c しかし d ところで e むしろ

問4 二重傍線部 i、ii のここでの意味として最も適当なものを、後の a～e のうちから一つずつ選びなさい。解答番号は i－、ii－。

i レッテル貼り

- a 一方的に評価や判断を下すこと
b 理性的な評価や判断を行うこと
c 一般的な評価や判断を確認すること
d 現実的な評価や判断を告げること
e 絶対的な評価や判断を宣告すること

ii 奇矯な

- a 高尚過ぎて、理解できないさま
b これまでになく、個性的であるさま
c あまりに珍しく、興味深いさま
d 風変わりで、荒唐無稽なさま
e 普通とは違い、とつぴであるさま

問5 傍線部2「学問としての歴史学の特異性」とあるが、学問としての歴史学はどのようなところに特徴があるのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は10。

a 学問としての歴史学は、研究対象が属している時代、地域の価値体系や意味構造を十分に把握し、あくまでもそれらに基づき対象化された歴史を描くところに特徴がある。

b 学問としての歴史学は、唯一絶対的な客観的事実としての歴史が存在しているわけではなく、歴史家の主観性を通してしか歴史は存在しないとするところに特徴がある。

c 学問としての歴史学は、科学的手続きを厳密に踏んでも史料からは歴史的事実は確定できないので、歴史家が文学や物語として歴史を作品化するとともに特徴がある。

d 学問としての歴史学は、歴史家が自らの人生の生活体験を通じて手に入れた問題意識を持って捉えた歴史を、あるべき客観的な歴史と位置づけるとともに特徴がある。

e 学問としての歴史学は、当時の人たちの出来事に感情移入したり、追体験したりできないものは歴史ではなく、歴史とは個人的なものだと捉えるところに特徴がある。

問6 空欄Ⅱを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は11。

a 一般性と現実性 b 精神性と卓越性 c 世俗性と公理性

d 普遍性と抽象性 e 法則性と合理性

問7 傍線部3「公的な歴史」とあるが、どのようなものが公的な歴史なのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。

解答番号は **12**。

a 一人の歴史家が認定するだけでは単なる私的な歴史に過ぎないが、多数の歴史家が共同で、あるべき客観的な歴史として認定したものが公的な歴史である。

b 共同的、社会的関心に照らして意義ある事実と認識されたうえで、正統的な歴史観に基づき客観的事実として意味があるとされたものが公的な歴史である。

c 多くの人に共通する歴史観に基づき、個々人の思い出や記憶が、物語り行為により構造化され共同化された、問主観的妥当性をもつものが公的な歴史である。

d 間違いや欠落などが存在することなく、客観的事実として史料に記載された多くの出来事の中で、「想起の共同体」へと登録されたものが公的な歴史である。

e 独創的ではない歴史観に基づき、それぞれの人間が思い起こした過去の記憶の中で全ての者が一致し、想像の共同体に支えられたものが公的な歴史である。

問8 空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **13**。

a 力動的流れ b 直線的流れ c 断続的流れ d 均質的流れ e 円環的流れ

問9 次の一文は、本文中の【1】～【5】のどこに入るか。後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **14**。

今や、マルクス主義の唯物史観など教条的な歴史法則はもとより、経済状態や交換形式、生産者と消費者の距離などに着目したドイツ歴史学派の発展段階説も信用を失っている。

a **【1】** b **【2】** c **【3】** d **【4】** e **【5】**

問10

傍線部4「そもそも方向性の感覚を持たない歴史(家)は歴史(家)ともいえないのであろう」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 15。

a 時間の経過とともに進歩していく社会の動きについて、どこからきてどこへ向かっていくのかを見定める歴史の「道筋」を持たない歴史(家)は歴史(家)ともいえないのであろうということ。

b 各地域や時代の中で凝固され、定式化されているがゆえに、未来や目標を予見することが可能となる歴史の「道筋」を持たない歴史(家)は歴史(家)ともいえないのであろうということ。

c ^{あらかじめ}予め決まっているわけではないが、民衆の生活や文化を不変なものとして実体化することができるとする歴史の「道筋」を持たない歴史(家)は歴史(家)ともいえないのであろうということ。

d 経験科学の実証性にしたがうことで、社会の変化や仕組みの方向性に意味を見出す^{いだ}ことが可能である歴史の「道筋」を持たない歴史(家)は歴史(家)ともいえないのであろうということ。

e 時代の経過とともに変容するとはいうものの、各地域や時代において、歴史的事象を意味づける歴史の「道筋」を持たない歴史(家)は歴史(家)ともいえないのであろうということ。

問11 本文の内容と一致するものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は16。

a たとえ歴史の見方が共通していたとしても、誰にとっても同じ歴史などというものは存在せず、出来事の当事者でないと歴史は書けないと小林秀雄は考えている。

b 個人の記憶は多くの間違いや欠落を含んでいるため、たとえ複数の人間により志向的統一がはかられたとしても、個人の歴史ではない皆の歴史になることができない。

c 個人的な甘美な感懐は思い出と言うことはできても、「物語り行為」による媒介がなく間主観的なものではないため、歴史ということとはできないと野家啓一は言う。

d マルクス主義の唯物史観やドイツ歴史学派の発展段階説は、もはや歴史学において、信用を失っているため、歴史の構築は実証主義的な歴史観に基づくべきである。

e 歴史を解釈するために必要とされる歴史観は、歴史家の主観に基づいた歴史家固有のものではなく、「想起の共同体」の成員全てに共有されるものでなければならぬ。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

二一世紀初頭のシリコンバレーのプラットフォーム^(注2)たちが牽引した、ローカルな国家の集合体からグローバルな単一の市場^(注1)への変化は、共同体(国家)から場(市場)への変化と言いかえることができる。そして、二〇一六年以降は、この変化に対するアレルギー反応が表面化し、このプラットフォームの思想の限界が露呈している。

国民国家とは、人々が同じ物語を共有することで成立する共同体だ。だからこそ、オリンピックにおいてナショナル・チームが活躍すること、そしてそれが新聞やラジオ、テレビなどに媒介されて、人々が平面の中の他人の物語に感情移入することが国威発揚に大きな役割を果たす。二〇世紀前半の世界を悪夢に陥れた全体主義が、ラジオとニュース映画の産物であることは広く知られている。そして現在、僕たちは物語ではなくゲームを用いて、人間をより深く没入させている。物語の読み手がそれをただ受け取るのに対して、ゲームのプレイヤーはそれに関与する。そして、自己の関与で世界が変化することに強い快楽を覚える。このとき、もつとも簡易にそして強くその快楽を与えるのが、他のプレイヤーからの承認だ。既に支配的な話題に対し、既に支配的な意見のどれかを選択して発信すれば、共感による自己肯定に飢えたゾンビのような同類からの承認をインスタントに獲得できる。そして、いま人類の多くがこのインスタントに手に入る承認の中毒になりつつあり、このメカニズムは既に政治(選挙)や経済(マーケティング)に応用されて久しい。

共同体はメンバーシップに規定される。同じ物語を信じていることが、参加の条件になる。対して場プラットフォームはバーミッションさえあれば、同じルールでゲームをプレイすることが参加の条件になる。その意味において、プラットフォームは共同体の呪縛から人々を自由にする。選べない親の呪縛から、国家の抑圧から、人間を自由にした。しかし、そのために人間は巨大なゲームに支配されるようになったのだ。

では、どうするのか。このプラットフォームを、人間外の事物に触れられる場所——たとえば「庭」のようなものにするのが、僕の提案だ。^(注4) ロレンスは家族や国家といった共同体から自由になるために、その外部プラットフォームを砂漠に求めた。しかし、彼はむしろ内部に砂漠を見出すべきだった。そしてその内部に砂漠もある場所とはなにか。その世界の内部に砂漠、砂場もあれば、岩場もあり、そして森も池もある場所——それが「庭」なのだ。

僕の友人に、先天的に四肢が欠損した人間がいるが、彼は生まれてからこのかた「歩きたい」という欲望を抱いたことがないという。スムーズな移動ができればその方法は何でも良い、と彼は述べる。これは、人間の欲望がその身体にも大きく規定されることを意味している。そしてFacebookやTwitterのようなSNSのプラットフォームには、誰もが同じ機能をもつ I ^(注5) された社会的身体(アカウント)しか存在し得ない。僕と彼の身体はまるで違うが、プラットフォーム上で僕と彼の社会的な身体に差はない。この I ^(注5) された身体とは、相互評価のゲームのプレイに特化した身体であり、その身体から生まれた欲望はゲームによる承認の交換に集中していくことになる。

対して、「庭」にはさまざまな植物が生え、動物たちが暮らしている。砂場があり、岩場があり、森があり、池がある。これらのものに触れるとき、人間の身体は多様な性質を発揮する。少なくともプラットフォーム上で承認を交換するときよりも、圧倒的に多様に身体を働かせ、それによって多様な欲望を抱く。人間の身体が発動する機能と、そこに生じる欲望は、「庭」にうごめく事物の多様さに比例するのだ。

このとき重要なのは、「庭」は人間の意思で完全にコントロールすることはできない場所であるのと同時に、人間が介入することではじめて成立するものであるということだ。常に風雨にさらされ、意図せぬところに草木が芽吹き、虫の湧くそこは人間間の相互評価のゲームとは異なり、II されな
い。そこに存在している事物たち同士は、ときに人間の存在と無関係にコミュニケーションを取ることに変化していく。人間間の相互評価のゲームよりも事物の織りなす生態系のほうが、今日においてははるかに豊かな多様性を持つことは明らかだ。X

ここで僕が述べる「庭」とは、人間外の事物たちの織りなす豊かな生態系が存在し、それに人々が触れられる場のことをさす。そしてサイバースペースとサイバースペースの支配下にある今日の実空間を、SNSのプラットフォームから解放して「庭」に変貌させること、それが僕の最後の提案だ。僕たちはまず、インターネットを普及期の、つまり九〇年代後半から今世紀初頭までのインターネットに、かつてネットサーフィンという言葉がまだ死語ではなかった頃のインターネットにある次元では回帰することを目指すべきだ。まだ誰もが相互評価のゲームをプレイし、タイムラインの潮目を読むのではなく、自らが書きたい事物について純粹に批評し、それを発信していた時代に回帰することが必要なのだ。僕の展開する「遅いインターネット」という運動の骨子も、ここにある。この運動はまだ量的に劣勢だ。しかし、巻き返さないとけない。人間同士のネットワークの作り出す、タイムラインの潮目を読み、誰かの顔を窺うゲームをするよりも、事物そのものに圧倒される経験をインターネットが提供すること。かつて、深夜のネットサーフィンの結果たどり着いた、誰かのホームページに書き綴られた文章を明け方まで通読したときの罪悪感と充実感を思い出すこと。そのための表現を相互評価のゲームの外側に濫立させることで、広告記事に汚染されたGoogleの検索結果を回復させること（並行してGoogleのアルゴリズムが進化すること）が必要なのだ。

そして、ハッシュタグによって汚染された実空間もまた、回復されるべきだ。この貧しいゲームを内破する価値が、ゲームとは無関係に濫立していること。それこそが実空間が、都市が、山が、海が、砂漠が再び「庭」となる条件だ。

プラットフォームのもたらす相互評価のゲームから逃れるためには、そこに多様な身体が、人間外の存在がひしめいている必要がある。ゲームのプレイに参加しない、できない、する必要のない身体が、事物が溢れていること、そして人間がそれらの事物とのコミュニケーションによって否応なく変化し、ゲームの外側に逸脱してしまうこと。それが「庭」としての「実空間」のアドバンテージだ。

僕は本を書き、本を作る仕事をしている。だから本の比喻で考える。III とは、街の本屋のようなものだ。よい本屋にはときおり、店主や店員
の意思を反映した書棚がつくられる。その店主や店員が貧しい想像力しか持たなければ、棚も貧しくなる。棚そのものも小さく、手に入れた本を取り寄せ

るのも一苦勞だ。そして、プラットフォームとはもちろんAmazonに喩えられる。その在庫は無限大に近い。たまたま出会った街の本屋の能力に左右されず、ほとんどの本を（^{あらかじめ}予め知っていれば）入手することができる。しかし、そこには新しい本との出会いがない。そこには、既に誰もが話題にしているランキングと、既に自分がそれを愛好していることを人工知能が把握している分野の本との、限られた出会いしかない。しかし、僕はここで単に街の本屋に帰れと述べることはできない。自分の暮らす街に貧しい本棚しかない本屋しか存在しないときに、自分の生まれた土地を呪ったことが二〇世紀の地方に生まれ人々には少なくないはずだからだ。僕もその一人だった。だから比喩的に述べれば、³ここからの街に必要なのは、限りなく選書されていない非正規の図書館のようなものだ。あるいは、BOOK OFFのような、新古書店の百円コーナーのようなものだ。まったく選書されず、汚れているから、一定期間売れなかったからという理由で機械的にワゴンの中に放り込まれる。そこに誰もが立ち寄り、物色し、そして立ち読みすることができる。多くのこの種の書棚がそうであるように、そこには百冊の他愛もない本に混ざって一冊の決定的な本がごくたまに、奇跡のように存在することがある。これは選書にせよ、ランキングにせよ、人間が選ぶことでは絶対に発生しない

IV

だ。そして、このような

IV

を通してしか出会えないものもあることを、僕たちは経験的に知っているはずだ。

一人の物書きとして、出版人として、裏切りに満ちた比喩を用いている自覚はある。しかし、これが僕の考える「庭」的な実空間の成立条件なのだ。そこに閉じた相互評価のゲームとは無関係な事物が強い力によって人間の意志とは無関係にばら撒かれ、ⁱⁱ遍在し、そして人間を「見る」こと。古い街に暮らす人間が「歴史を見る」のではなく「歴史に見られる」ように、人間が事物を「見る」のではなく事物に「見られる」こと。事物同士のコミュニケーションに人間が触れ、人間がそれらに「見られ」て、ときおり自らもコミュニケーションを取り、結果的に変化、いや変身してしまう。この回路をもつことが、「庭」の条件なのだ。

（宇野常寛『砂漠と異人たち』による）

（注1）シリコンバレー——カリフォルニア州サンフランシスコベイエリアの南部に位置し、ハイテク産業が集中的に進出しているところ。

（注2）プラットフォームたち——企業や個人がインターネット上でビジネスを展開する際に、その基盤（プラットフォーム）となるサービスやシステムを提供・運営する事業者のこと。

（注3）パームシモン——許可のこと。

（注4）ロレンス——イギリスの軍人。

（注5）Twitter——ソーシャルメディア、ソーシャルネットワークシステム。現在のX（エックス）。

* 問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 傍線部1「人間は巨大なゲームに支配されるようになった」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **17**。

- a プラットフォームでは、自己が関与することで世界を変化させることが可能で、いままでとは違い全能感を味わうことができるから。
- b プラットフォームでは、みんなが同じルールでゲームをプレイすることが可能で、政治や経済の世界で成功を収めることができるから。
- c プラットフォームでは、共同体が支配しているときは異なり、自らの意見の発信が可能で、自己肯定感を持つことができるから。
- d プラットフォームでは、共同体の呪縛や国家の抑圧から逃れることが可能で、自由に行動ができ、人々の共感を得ることができるから。
- e プラットフォームでは、許可さえあれば、自由にゲームに参加が可能で、他者から承認を得ることで強い快楽を得ることができるから。

問2 空欄Iを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **18**。

- a 神話化
- b 画一化
- c 規範化
- d 世俗化
- e 潜在化

問3 空欄IIを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **19**。

- a 相対化
- b 対象化
- c 最適化
- d 周縁化
- e 蓋然化

問 4

20。

X

に入る、次のア～オの五つの文を正しく並べたものとして、最も適當なものを後の a～e のうちから一つ選びなさい。解答番号は

ア それは人間が認識できないほど速く変化することもある、逆に人間の短い生では気づかないほど遅く変化していくこともある。

イ そしてこのとき、人間は他の人間と承認を交換することなく、世界に関与している手触りを得ることができるのだ。

ウ だが、ここに一つ問題が発生する。

エ だからこそ、人間は自然に手を加え「庭」にすることで、つまり自然の時間を人間の時間に近づけることではじめてその多様な変化を認識することができる。

オ 自然の循環のリズムは、人間の時間に合致しない。

a イ→ウ→ア→エ→オ

b イ→ウ→オ→イ→エ

c ウ→オ→ア→エ→イ

d ウ→オ→エ→ア→イ

e オ→ア→ウ→イ→エ

問 5 二重傍線部 i、ii のここでの意味として最も適當なものを、後の a～e のうちから一つずつ選びなさい。解答番号は i 1 21、ii 1 22。

i 潮目を読む

a 固定観念に縛られずに、物事を考える

b 情報を精査し、的確に判断する

c 流れゆく物事が向かう方向をつかむ

d 状況の変化の原因を探し出す

e 何がいま問題になっているかを理解する

ii 遍在

a あまねくゆきわたって存在すること

b 時代的に限定されて存在すること

c 隠れることなく表立って存在すること

d ひとつところにかたよって存在すること

e だれにとつてもわかりやすく存在すること

問6 傍線部2「『遅いインターネット』という運動」とあるが、これはどのような運動なのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は23。

- a 速すぎる情報の消費速度にストップをかけるために、インターネットによって大量の情報を発信し、スピードを弱めようとする運動。
- b 相互承認をすることによって強い快楽を得るために用いるのではなく、自己によって自己のために用いるインターネットにする運動。
- c 知的情報を入手し、じっくり情報を読み解くことで、娯楽のためではなく豊かな教養を身につけるためのインターネットにする運動。
- d 相互評価のゲームに躍起になるのではなく、ゆっくり情報を読み取り充実感を味わうことができるインターネットにしようとする運動。
- e 広告記事やハッシュタグに汚染されずに無償で情報を提供することによって、インターネットを時間にとらわれないものにする運動。

問7 空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は24。

a プラットフォーム b ホームページ c 共同体 d 身体 e 市場

問8 傍線部3「これからの街に必要なのは」とあるが、どのような本屋が必要だと筆者は考えているのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は25。

- a 特に面白いものがあるわけではないが、一定期間売れなかったという理由で、廉価で販売される本が多数店先をにぎわしている本屋。
- b 自分が今まで読んだことがないだけでなく、自分の知的興味を引きそうな本が並んでいて、しかも気軽に立ち寄ることができる本屋。
- c 既に誰もが話題にしているランキングの本ではないが、今まで自分が興味を持って読んできた分野の本の品揃えが充実している本屋。
- d 並べられている本の数はそれほど多くはないかもしれないが、店主や店員が本を選ぶセンスと自分の本の好みとがピタリと合う本屋。
- e 特に選ばれたわけでも、売れ筋でもない本が並んでいるだけなのだが、自分にとっての決定的な一冊にまれに出会うことができる本屋。

問9 空欄Ⅳを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は26。

a 過渡的な流動性 b 圧倒的な合理性 c 普遍的な法則性 d 暴力的な偶然性 e 神話的な創造性

問10 次の①～⑤のうち、筆者の考え方にあてはまるものにはa、あてはまらないものにはbをマークしなさい。解答番号は ①―、②―、

③―、④―、⑤―。

- ① サイバースペースとサイバースペースの支配下にある実空間を解放するために、インターネットを使用することから離れるべきである。
- ② 人間の欲望はその身体に大きく規定されるもので、身体が多様な性質を発揮しているときは、多様な欲望を抱くことが可能である。
- ③ ラジオや映画という媒体を通じて情報を入手したため全体主義に陥ったので、直接事物とコミュニケーションを取ることが重要である。
- ④ 誰もが社会化された身体を持ち、平等に扱われるSNSのプラットフォームは、画期的であり、理想的なメディアとして評価できる。
- ⑤ 人間間の相互評価のゲームから距離をとり、事物そのものに圧倒されるような経験をすることが、現代社会において求められている。

問11 本文における「庭」とはどのような実空間なのか。本文中の語句を用いて、一〇〇字（句読点なども字数に含む）以内で説明せよ。

※解答は記述問題用の解答用紙に記入しなさい（マークシートには記入しないこと）。

問1 次の漢字の画数として正しいものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **32**。

「寡」

- a 十画 b 十一画 c 十二画 d 十三画 e 十四画

問2 熟語の表記が三つとも正しいものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **33**。

- a 初般ー目途ー過客
b 出鼻ー羅漢ー包活
c 耐熱ー移留ー浅慮
d 生計ー悟性ー痛弊
e 折衝ー氣位ー難航

問3 次の文の、カタカナ部分の傍線部と同じ漢字を書くものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **34**。

一大センプウを巻き起こす。

- a 美しいセンリツを奏でる。
b ショホウセンを薬局に持って行く。
c ショセン横綱には勝てないだろう。
d センスを使って風を送る。
e センボウのまなざしで見る。

問4 次の四字熟語の空欄に使われている漢字の組み合わせとして正しいものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 35。

意気 天 — 疾風 雷 — 頭滅却 — 粒粒 辛 — 一当千

a 衝 — 鳴 — 心 — 口 — 機

b 衝 — 迅 — 心 — 苦 — 騎

c 衝 — 鳴 — 身 — 口 — 機

d 照 — 迅 — 身 — 苦 — 騎

e 照 — 鳴 — 身 — 苦 — 機

問5 傍線部の慣用句、故事成語の使い方が正しくないものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 36。

a 知らないふりをして、しらを切りとおす。

b 義理を欠いているので、あの家は敷居が高い。

c 連立政権は砂上の楼閣の様相を呈してきた。

d 気に入った子だけ連れて行くなんて、判官鼻頂だ。

e 満を持して初日の舞台に立つ。

問6 慣用句、故事成語とその意味の組み合わせとして正しくないものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 37。

a 腕によりをかける — 十分に技能を発揮しようと思気込むこと。

b 隗より始めよ — 遠大な事業は、まず身近なところから始めよということ。

c 手をこまねく — 何もしないで傍観する。

d 一葉落ちて天下の秋を知る — わずかな前触れによって、その大勢を予知すること。

e 思案に暮れる — 一生懸命考えているうちに、名案が浮かぶこと。

問7 次の五つの熟語の対義語を1～10のうちから選ぶとき、正しいものがすべて含まれている組み合わせを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **38**。

「悠々」「推奨」「暗愚」「動揺」「委細」

1 受容 2 齷齪^{めくせく} 3 概略 4 大局 5 抑止 6 名君 7 安定 8 定礎 9 賢明 10 速報

a 1、3、5、4、8

b 2、3、5、7、9

c 2、3、7、8、9

d 2、4、5、7、10

e 1、3、4、6、9

問8 次のカタカナ語の意味を、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **39**。
「マクロ」

a 遠近法的 b 多角的 c 巨視的 d 理性的 e 原風景的

問9 小林多喜二の作品を、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **40**。

a 蟹工船^{かに} b 太陽のない街 c 放浪記 d 測量船 e 機械

問10 1901年に大阪で生まれ、小説『檸檬^{れもん}』や『城のある町にて』などを発表し、夭折^{ようせつ}した短編の天才とは誰か。次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **41**。

a 田山花袋 b 樋口^ひ一葉 c 横光利一 d 梶井^{かじ}基次郎 e 宇野千代

<メモ>